

富士山スキー滑降の記録

横須賀山岳会 鳥切記

期 日:2010年5月16日(日)

山 域:富士山 富士宮口(静岡県)

メンバー:山口 修(52才) 鳥切昇治(70才)(敬称略)

*総会後の二次会で山口君から「富士山を滑りましょう」と声を掛けられた。酒の席の冗談と思っていた。それが何と実現してしまった。横須賀山岳会にバックカントリースキーをする人は、私一人と思っていたが、うれしいスキー山行になった。おかげで、好天にも恵まれ、豪快で楽しいスキーが楽しめた。

行動記録

5月16日(日) 天候:晴

迎えに来てくれた山口君の車で、自宅から富士宮口新五合目まで約2時間。自宅からこんなに近い所で日帰りスキーが出来ることが信じられない。富士宮口新五合目(標高:2400m)に着くと車の多さに驚く。見上げると黒々とした斜面に残雪が白く筋状に見える。風が冷たく、結構寒い。

身支度を整え、スキーとスキー靴を担ぎ、登山靴で夏道を登り始める。1ピッチ登ると雪渓の末端に着き、ここでアイゼンを履く。何故か私の左足のアイゼンが外れてしまう。家で確認してきたのに?マイタツ。幸いに脇でアイゼンを着けていた人が六角レンチを持っていて、借りて調整する。初歩的なミスを犯し、反省!

雪渓を見上げると点々と人が見える。2ピッチ後、山口君の調子が上がらないようで、先行して登る。標高が高くなるにつれ寒くなり、ウインドブレーカーを着る。雪質もザラメから締った雪となり、アイゼンが利き快適に高度を上げて行く。氷のブロックが急な雪面に点々と出てくる所を登ると、鳥居が氷で半分埋まっている浅間神社に着く。山小屋は屋根だけ出ている雪で埋まっている。風も余り無く、青空が広がっている。



山頂から雲海上を登る登山者



剣ヶ峰の私



雪渓を登る登山者と宝永山

下界は雲海の中。時間は夏と同じ位掛ったが、スキーとスキー靴を担いでいることを考えれば、順調に登って来た。

山口君が到着するまでに登って来ようと、剣ヶ峰に向う。大沢崩れの上まで行くと、外人を含めた5~6人が大沢崩れを滑って行く所だった。BCスキーもここまで来たかと驚く。剣ヶ峰までは雪上なので夏より楽だった。剣ヶ峰からの360度の眺望は素晴らしい。雲

海の上に南アルプスが見える。お釜に向ってボーダーが滑って行く。

浅間神社まで戻ると、居る筈の山口君が居ない。下ってしまったのか？慌ててザックを担ぎ下って行くと、登って来る山口君を見つけ、ホッとする。風が無い所で腹ごしらえと滑降の準備をする。もうほとんどのスキーヤーは下って行った。



山口君頂上に到着



剣ヶ峰測候所跡

鳥居の所から滑降を開始する。氷のブロックを避けて慎重に滑り始める。山口君が度胸良く滑って行く。氷のブロックが無くなったあたりからジャンプターンで滑る。見た感じと違い、意外と滑り易い。下を見ると誰もいない。我々二人の貸し切りである。息が切れるので休みながら滑って行く。途中、山口君の滑りをビデオ撮影。次第に雪がザラメ状になる。そのまま滑って

行くと御殿場口の方に行ってしまうので、左にトラバースする箇所を見逃さないように滑る。登る時にアイゼンを着けた所まで滑り降りる。ガスの中に入り、滑って来た所は見えない。おそらく雲海の上なのだろう。ご機嫌の大滑降だった。

新五合目駐車場までスキー靴で下る。新五合目まで下って来るとガスも上がり良い天気。観光客の姿が目につく。荷物を車に積み込んで新五合目を後にする。

御殿場ICから東名に入ったが、横浜・町田ICを頭に30kmの渋滞で流れが悪いため秦野・中井ICで下り、海岸に出て帰宅する。ハードだったが楽しいBCスキーだった。

新五合目駐車場 7:20—(5ピッチ)—11:58 浅間神社 12:15—12:30 剣ヶ峰 12:40—12:50 浅間神社
(13:00 山口君到着) 13:50—14:25 滑降終了点 14:40—15:10 新五合目駐車場
往復路車利用(山口車)

往路;横浜 4:30—(横々・東名経由) —6:23 富士宮口新五合目

復路;新五合目駐車場 15:55—(東名利用御殿場～秦野・中井間)—19:20 横浜

以上